

番号	「広島絵図」での表記	町名等	概要 (表中に典拠の記載のないものは『日本歴史地名大系 35 広島県の地名』 平凡社／編 平凡社 1982年)より抜粋)
1	東箱嶋町	東白島町	城郭北側…に位置する横町で…地名は「安芸国神名帳」にみえる宮島(はこしま)明神(現礎神社)によると考えられる
2	寺町	寺町	広島城下北西部に位置し、北の沼田郡から横川に架かる横川橋を渡って城下に入る雲石路に面する。…毛利氏時代には武家屋敷町であったが、慶長一四年(一六〇九)福島正則の時、打越村小河内(おがわち)(現西区)にあった浄土真宗の大寺仏護(ぶつご)寺と、末寺とされたいわゆる仏護寺十二坊の寺々が移され、城下西北口に対する防衛に備えられた
3	西引御堂町	西引御堂(にしひきみどう)町	雲石路に沿う町で…町名はのち胡(えびす)町に遷座した胡社に由来する。同社は高田郡吉田(現吉田町)に鎮座した社で、広島城下開築のとき古市(現安佐南区)に別当寺の真言宗西光(さいこう)寺(神仏分離後廃寺)とともに移された。次いで定期市が立ち商業の盛んであった城下十日市の北続きの当町に移され、慶長九年(一六〇四)胡町が「市の町」として町割された時、さらにその近くに移され、その付近はそれぞれ東西両引御堂町とよばれた
4	十日市町	十日市町	雲石路沿いの西引御堂町の南に続く両側町で…高田郡吉田(現吉田町)の十日市場を移したものとわれ、太田川上流の沼田郡内の農村の筵などの加工品や青物類が、その水運を利用してその水運を利用してここに集荷され、市が開かれた…
5	小屋町	小屋新町	古屋町・小屋町とも記す。西国街道に沿う町で、広島城下西端に位置する。…町名は広島開発の時この地に設けられた普請小屋がやがて家宅となったことに由来する(『角川日本地名大辞典 34 広島県』「角川日本地名大辞典」編纂委員会／編 角川書店 1987年(以下『角川日本地名大辞典 広島県』と表記))
6	堺町	堺町	…西国街道沿いの町筋。町名の由来は当地町割の時、和泉国堺から来住した境屋にちなみ境屋町と称したことによる(『角川日本地名大辞典 広島県』)
7	大工町	西大工町	…「知新集」は…「この大工町むかしハ大工職のものはかり住ける故名つく…」と記し、職人の集住した町として成立したことが知られる。…寛永一六年(一六三九)には新町組の東大工町(のち稲荷町中組、現南区)とともに町割が行われている
8	ねこや町	猫屋町	雲石路沿いの十日市町南に続く両側と、その途中東に折れる横町を町域とする。雲石路は猫屋町南端で山陽道に突当る。広島開府のとき府中(現安芸郡府中町)の松崎八幡宮神官出身の加藤九郎左衛門兼鎮が猫屋を号として商家を構え、町名となったといわれる
9	油屋町	油屋町	雲石路を東に折れた横町で、…「知新集」に「むかしより油商人多く住ける故名つく」とある
10	かぢや町	鍛冶屋町	…油屋町の東に続く町で、その東寄りを北に折れた縦筋も町域に含まれる。…「知新集」に「往古より鍛冶屋多住けるゆゑ名つく」とある
11	地方町	西地方(にしじかた)町	畳屋町とも称し、「知新集」は「此所を畳屋町とよぶハ当地町割の時畳刺多くこゝに集ひける故名つくる由いへり、其後いつの頃地方町と改りけるや知れず…」と述べる
12	塚本町	塚本町	山陽道の通る猫屋橋(本川橋)西詰付近とそこより北に延びる通りを町域とする。…太田川の本流の左岸で舟運の要地として、また山陽道沿いの町として早くから町屋が設けられ商業が盛んであった
13	かべや町	かべや町	…西土手町とその枝町かべや町…(『角川日本地名大辞典 広島県』)
14	西土手町	西土手町	「知新集」に「このところ本川西土手側なるゆゑ名つく」とあり…町域の北側を山陽道が通るため、西土手町には寛永一八年(一六四一)に一般旅客のため一夜限りを原則とする旅人宿が城下で初めて許可された
15	唐人町	唐人町	西土手町南側の小路の小町で…一説に福島正則がキリスト教を容認し、対外貿易を重視したため貿易に関係した外国人が居住した地であったかともいう
16	新町筋	中島新町	…本川(太田川)沿いの町で…本川土手側に貞享-享保(一六八四-一七三六)頃藩の炭蔵があり、炭蔵小路と称され、南の小路には文政(一八一八-三〇)頃米蔵も建てられた
17	本柳町	元柳町	町名は「知新集」に「往古柳の大木土手根にありしゆゑ」とあり、のちに開かれた新町組の東柳町(現南区)に対し、元柳町といった
18	材木町	材木町	天神町の通りの西に平行して通る町で…町名は昔から材木を商う者が多く居住したことによるという
19	中嶋本町	中島本町	山陽道沿いの町で、…途中山陽道は鉤の手に折れる。町域北は元安川と本川が分岐して中州状をなし、その先端は慈仙寺(じせんじ)の鼻とよばれる低平な土地であった。「知新集」に「中島の本通りなるゆゑに名つく」とある
20	湯屋町	湯屋町	…天神町筋の北に湯屋町があり、…もと空風呂屋があったので名付けられたといい、中島本町の枝町であった
21	天神町筋	天神町	古くは船(ふな)町といったが、…寛永(一六二四-四四)中頃から正保-慶安(一六四四-五二)頃までの間に改められた。満松院菅神社があることからその町名が付けられたという
22	木引町	木引(こびき)町	西は本川(太田川)端より東は天神町の筋までの横町で…昔から木挽職の者が多く居住したため町名になったという
23	加子町	水主(かこ)町	武家屋敷町。…藩船や一千石以上の侍士の軍役として常備された船舶の船頭・水主が多く居住したので町名にその名が付された。早くから太田川の主流である本川・元安川の水運が重視され、藩府の船屋敷(船手方役所)が設けられた。船入には藩船が係留され、船蔵や藩船の新造・修理に当たる船作事所などが置かれた
24	細工町	細工町	白神一丁目の一本西側の縦町で…「知新集」は「もと小細工職の者数多住居せし故、かく名つくるか」と記す。…南の山陽道、西の元安川という水陸の交通路に恵まれた町内は早くから活気をみせ…
25	たうふや町	鳥屋町	白神二丁目の一本西側にある筋の両側町で…「知新集」に「寛永・承応の絵図とも豆腐屋町とあり、天和三年の絵図にハ鳥屋町とミゆ」とあり、承応以降天和初め頃までに町名が改められたと推測される。町名は当時町年寄であった鳥屋八右衛門の屋号にちなんで名付けられたともいうが不詳
26	本町一丁目	白神一丁目	広島城大手門から南へ城下町の基線をなす通り筋の北端に位置する。南の白神二丁目との間は山陽道が東西に走る
27	二丁目	白神二丁目	白神一丁目の南の町…
28	三丁目	白神三丁目	白神二丁目の南にあり…
29	四丁目	白神四丁目	白神三丁目の南にあり…
30	五丁目	白神五丁目	白神四丁目の南にあり…
31	六丁目	白神六丁目	白神五丁目の南にあり…
32	さるがく町	猿楽町	城郭南の外濠に平行する横町で、この筋より南に向けて白神一-六丁目の筋、その東側の紙屋町の筋、西側の細工町の筋などの縦町が延びる。「知新集」は「もと能役者猿楽の類多く居住しけるにより、かく名つくるか、由来不詳」と記し…元安川を利用しての材木集散地の一であった

番号	「広島絵図」での表記	町名等	概要 (表中に典拠の記載のないものは『日本歴史地名大系 35 広島県の地名』 平凡社／編 平凡社 1982年)より抜粋)
33	かみや町	紙屋町	…町名は天正一九年（一五九一）伊予国から来住した伊予屋九郎右衛門が紙商いをしたことによるといわれる
34	横町	横町	猿楽町の本南の、山陽道に面する両側町で、町の中央を縦に通る白神一丁目によって東横町と西横町に分けられる。…当町には代々広島藩の菓子御用を勤めた二文字屋源右衛門家があり、寛永一承応（一六二四一五五）の頃より居住、堀川町の虎屋とともに蒸菓子・干菓子の類を製造した
35	志ほや町	塩屋町	紙屋町の南に続く両側町で…南北に運河の西堂（せいとう）川が流れ、舟運の便がよかった。…町中を流れる西堂川北部は、築城当初は幅一三間で船がさかのぼったが、元文二年（一七三七）中央部の幅一間の水路を残して両側を埋立てた。
36	革屋町	革屋町	播磨屋町の西に続く山陽道沿いの横町で…革細工する者が数多く居住したといわれる
37	西魚屋町	西魚屋町	革屋町の南に位置する横町で…町名は、魚商人が多く居住し市場が開かれたためといわれ、北東の平田屋川沿いの東魚屋町に対して西魚屋町と称する。
38	尾道町	尾道町	塩屋町の南に続く両側町で…「知新集」は…「尾道浦より大工・石工来り、居宅を造作し所々普請出来ける故尾道町と名つけし由」と記す。その後この辺りは西堂川の水運を利用して商業が盛んになったと察せられる
39	とぎや町	研屋（とぎや）町	立町の西側の水道沿いの縦町で…毛利氏の広島開府の時、紀伊国より一党を引連れて来住した牢人湯川播磨守宗有らが、当時干潟であった播磨屋町・研屋町・紙屋町・立町辺りを埋築して町割を行い、この功績により宗有は研屋町に一〇〇間の屋敷地を与えられ、一党とともに居住、刀剣の研磨を業とし、研屋町と称するようになったと伝える
40	はりまや町	播磨屋町	平田屋町の西に続く山陽道沿いの横町で…天正（一五七三一九二）頃、湯川播磨守宗有が紀伊より広島に来住、研屋町・紙屋町・立町および当町辺りを開拓、その功により屋敷地に町名を残したと伝える
41	たて町	立町	城の立町門の南に続く縦町で…「楯町」とも記され、町の四辻西の筋は、もと八百屋が多く居住し八百屋町とよばれた
42	東魚屋町 ひかしうをや町	東魚屋町	東は平田屋川を挟んで堀川町に対する縦町で…町内を山陽道が東西に通ずる。…「むかしより魚を商ふもの多くすめり」（知新集）という。城下では京橋町（現南区）・西魚屋町とともに魚市場が立ち、この地がその中間に位置することから中の棚（なかのたな）とも、また魚の棚（うおのたな）とも称された
43	平田屋町	平田屋町	山陽道沿いの横町で…町名は、出雲の尼子家盛の家臣であった平田屋惣右衛門（宗加）が広島城下建設の時、毛利輝元に招かれて出雲平田（現島根県平田市）より来住、城普請・町割などに協力、その功で屋敷地をもらい、毛利氏により町人頭に命じられ町中支配に当たり、福島氏の時には大年寄となった、その名にちなんで名付けられたという
44	鉄砲屋町	鉄砲屋町	「知新集」に「もと鉄砲鍛冶あまた住けるゆゑ名つく」とあり、職人集住の町…
45	せんば町	新川場（しんせんば）町	東に平田屋川が流れる縦筋の片側町で…毛利氏の城下建設に伴い、平田屋川が石材・木材運搬などのため開かれたが、その着船場の町として開かれ、新船場町と称された。…川と船が同音であることから後には川場と記された
46	ゑびす町	胡町	町名について「知新集」は「慶長八年福島殿時代、胡堂西十日市町より此ところへ引うつし、はしめて胡町と名つく、古名市の町といふは其前より此処にて市立しけるゆゑなり」と記す。…町内中ほど北側より北に向けて延びる通りを鉄砲町筋とよぶ。町名の由来ともなった胡社（現胡子神社）は通りの北側、鉄砲町筋の東に鎮座する
47	ほり川町	堀川町	山陽道沿いの横町で…天正一七年（一五八九）広島城下町普請にあたり、石・木材運搬のため平田屋川・西堂川が開削されたが、その時平田屋川近辺に初めて町家が建てられ、堀川新町とよばれた（知新集）のに始まる
48	竹屋町	竹屋町	寛永一六年（一六三九）竹屋村より分離して一町となり、もとの村名を付して町名とした
49	東引御堂町	東引御堂（ひがしひきみどう）町	町名について「知新集」は「往時胡堂今のところへ引うつされし時、其町を胡町とよひ、此町を東引御堂町と名つけられしよし」と記す
50	ちぎや町	斜屋（ちぎや）町	山陽道沿いの横町で…町名について「知新集」は「斜屋何某といふものゝ家名によりて名付るか、由来詳ならず」と記す
51	銀山町	銀山（かなやま）町	…山陽道沿いの町であるが、山陽道は途中より西に折れて斜屋町に続く
52	山口町	山口町	石見屋町の南に続く山陽道沿いの縦町…
53	□□みや町	石見屋町	山陽道沿いの縦町で…町名について「知新集」は「家名によりて名付るならん」という
54	□□町	橋本町	山陽道の京橋より西に続く横町。山陽道は町の西詰を南折して石見屋町に続く。…町名は「知新集」に「京橋もとの町なるゆゑ」名付けたとある
55	柳町	東柳町	京橋東詰より京橋川に沿って南の柳橋東詰まで延びる町。…柳の木が多く植えられていたための町名
56	京橋町	京橋町	東行する山陽道は京橋川に架かる京橋を渡るが、その西詰より猿猴橋東詰までの山陽道沿いの両側町
57	吉田町	新愛宕（しんあたご）町	京橋川が猿猴川を分岐する南側の中州に、京橋町より中州先端に向けて通じる縦筋に沿う町で…京橋町以北の中州の地は、当町以外は比治村の飛地とされ、のちに台屋町が形成された。「知新集」に「古名吉田町といへり、たひく〔たび〕火災あるによりて、寛延三年極月改めて新愛宕町と名つく」とある
58	ひぢ山町	稲荷町	京橋町の南に位置し…大工職が多く居住した大工町は寛永一六年（一六三九）に東西に町割が行われており、天和の切絵図では大黒町は松川町となっている。享保一八年（一七三三）比治山町・東大工町・松川町・東土手町の四町が大火で罹災したため、比治山町に鎮座した稲荷社を四町鎮守の稲荷祠として各町名を稲荷町東組・中組・下組・西組と改めた
59	大工町		
60	大黒町		
61	東土手町		
62	かや町	金屋（かなや）町	古くは茅屋（かやや）町と称し、…度々の火災の結果、寛政九年（一七九七）火難防止のため金屋町と改名
63	ゑんかう橋町	猿猴橋町	山陽道沿いの両側町で…山陽道沿いの町筋として、町内には馬継場（伝馬所）が設けられ伝馬肝入役のもとに伝馬御用・旅行者の人馬継立を行い…猿猴橋は毛利氏時代に木橋が架けられていたが、以後山陽道に架かる橋として整備された
64	比治山	比治山	古くは広島湾頭に浮ぶ島で、藩政時代には御建山とされた
65	明星院山	二葉山	二葉山は昔は明星院山といい、天保六年（一八三五）九月に饒津神社が建てられた時「二葉山」とつけた。（『二葉山をめぐる郷土誌』（段原公民館郷土史クラブ／編 段原公民館郷土史クラブ 1990年））

※ 資料の状態により判読が難しい文字は□で表しています

※ [] は図書館追記